

令和 6 年 5 月 23 日現在

機関番号：32686

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K19959

研究課題名（和文）舞踏誕生のバックグラウンド再考

研究課題名（英文）A reconsideration about the background of emergence of butoh

研究代表者

宮川 麻理子（Miyagawa, Mariko）

立教大学・現代心理学部・助教

研究者番号：50908259

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：20世紀の舞踊史の中で大きな転換点となった、日本で生まれた舞踏（暗黒舞踏）の成立過程を再検討し、戦前から継続するモダンダンスの活動、戦後の黒人文化や、日本に流入した海外の文学・哲学などの書籍の影響を、大野一雄アーカイブや早稲田大学演劇博物館等に残る資料をもとに分析・検討した。その成果は、論考、学会発表（英語・フランス語）等で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果の学術的意義は、20世紀の舞踊史に大きなインパクトを残した舞踏を芸術史だけではなく、文化的・社会的・政治的背景を踏まえて再検討するところにある。ダンスという身体を基盤とした芸術の中に見えてくる多層的なバックグラウンドを理解すること、とりわけ海外の文化の受容との関連から論じることで、文化を一つの国で完結させず、より広い視野で検討することができる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research is to reconsider the development of butoh, or ankoku-butoh emerged in the post-war period in Japan. For this purpose, we have analyzed a continuity of modern dance before and after the WW2, and an influence of the literature and philosophical books translated in Japanese after WW2, and of the black culture, by using materials conceived in Ohno Kazuo Archive and The Tsubouchi Memorial Theatre Museum etc. The results were published as a text in a bulletin of Rikkyo University, and as presentations at an international conference in English and at a seminar in French.

研究分野：舞踊学、表象文化論、演劇学

キーワード：暗黒舞踏 モダンダンス 黒人文化 大野一雄 土方巽 江口博

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1960年代の日本で発展した舞踏(または暗黒舞踏)は、1980年以降は海外へも波及し舞踊史に大きな痕跡を残した。しかしながら、その舞踏が誕生した背景において、「西洋と日本文化のハイブリッドとして誕生した舞踏」という従来の認識では見落とされている視点があることが、近年 Arimitsu(2019)らによって指摘されている。それはすなわち、舞踏における黒人文化の影響である。本研究では、舞踏が誕生する素地となった戦前からのモダンダンスの流れ、また戦後の対日文化政策の影響、当時の日本人が描き出した黒人のイメージといった様々な文化的・社会的・政治的背景の混交を解き明かし、舞踏が誕生する文脈を改めて捉え直すことを目指した。

また舞踏は、同時代に読まれたテキストからも大きな影響を受けている。とりわけ舞踏を牽引した大野一雄や土方巽といった舞踏家たちが、戦後に翻訳されたバタイユ、ジュネなどのテキストや、三島由紀夫や澁澤龍彦といった同時代に活躍した日本人作家によるテキストに親しんでいたことは繰り返し指摘されている。しかし舞踏家の参照したテキストに関する体系的な研究はまだ不十分である。本研究では、舞踏の創始者・大野一雄が参照したテキストを検証することで、同時代に翻訳され新たに流入した哲学的潮流、交流のあった作家によるテキスト等が舞踏成立において果たした役割を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1960年代以降日本で発展した舞踏が登場した文化的・社会的文脈を再考することである。そのため、先行研究で十分に議論されてこなかった黒人文化の影響を捉え直す。「西洋と日本文化のハイブリッドとして誕生した舞踏」、すなわちモダンダンス、とりわけドイツ表現主義舞踊と、日本人の身体や日本文化の遭遇によって誕生したという従来の認識とは異なる視点で、戦後の時代背景やダンスの状況を検証し、多層的に黒人文化が痕跡を残していることを明らかにする。また、舞踏は同時代に読まれたテキストからも大きな影響を受けている。本研究では、舞踏の創始者の一人、大野一雄が参照したテキストを主に検証し、同時代に翻訳された書籍、新たに流入した哲学的潮流、交流のあった作家によるテキスト等が舞踏成立において果たした役割を検討する。以上を通じ、戦後日本のダンスの展開に影響を与えた国内外の状況や文学・芸術の潮流、日米関係に代表される政治力学を明らかにし、舞踊史を超えたより広い視野で舞踏を捉え直すことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、舞踏誕生の背景を、1.戦後の日米関係やダンスを中心とする文化交流から再検討し、黒人文化の痕跡を明示すること、2.同時代に読まれたテキストがどのように舞踏の動きへ反映されたのか明らかにすること、の2点を通じて再考するものである。具体的には、モダンダンスおよび舞踏の個別の作品調査、アメリカの文化政策の詳細な検討、舞踏家が所有する蔵書の調査が主な内容となる。大野一雄アーカイヴ、土方巽アーカイヴ、国会図書館、また早稲田大学演劇博物館等に出向いての資料調査(公演チラシ、プログラム、劇評、振付家やダンサーによる証言、舞台写真、映像など)とその分析が中心となる。また、『音楽新聞』や雑誌『現代舞踊』等に掲載された批評も対象とする。これらの資料をもとに、上演の実態、受容のされ方、時代・文化・政治的背景の分析を行う。また戦後の舞踊界を知る関係者・作品制作の当事者(舞踊家、舞踊批評家など)に聞き取り調査(書面)やインタビュー(対面・電話)を行う。

同時代のテキストに関しては、特に大野一雄の蔵書資料の調査及び書物の余白への書き込みの分析、テキストの引用が多数登場する創作ノート(大野が作品制作の際に構想やイメージ、印象に残ったフレーズ等をメモし、動きのデッサンも書き込まれたもの)の分析を通じて、多様なテキストの痕跡をあぶり出す。比較対象として、土方巽の蔵書の調査も行う。

アメリカの戦後の対日文化政策については、アメリカのニューヨーク市立図書館等での調査も実施を予定していたが、こちらに関しては円安等の事情によってまだ実現できていないため、今後の課題としたい。

4. 研究成果

舞踏およびモダンダンスへの黒人文化の影響を調査する中で、そもそも日本におけるモダンダンス自体を再検討する必要性が浮かび上がった。より具体的には、戦中のダンサーたちの活動について、昨今ようやく研究が進み始めたばかりであり(星野(2022)など)、特に戦前から戦後に至る歴史の流れを捉える上で、この時期の再調査が必要不可欠であると考えられる。そうした機会として、早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点の2022-2023年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」に共同研究チームとして採択されたことは大きな成果につながった。ここでは、戦前から戦後の長きにわたって活動した舞踊批評家である江口博の旧蔵資料(舞踊関係舞台写真・新聞記事スクラップ他280点)を調査し、昭和期を通じた日本の舞踊界の変遷に関する研究成果を発表することができた(研究発表:宮川麻理子「江口博が見た戦時下の舞踊」、早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点令和4年度公募研究課題

「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」主催「1 年次コレクション調査報告および研究成果発表」(早稲田大学、2023 年 1 月)。また、2023 年 11 月にはフランス国立舞踊センターにて、同課題の研究成果をフランス語にて発表し、日仏併記の論文集も刊行した。フランスではモダンダンスや第二次世界大戦中の舞踊に関する研究が盛んであり、日仏の事例を比較検討できたことで、今後のさらなる展開につながる展望が得られた。またフランスにおいては 20 世紀の日本の舞踊は暗黒舞踏のイメージが圧倒的に優勢で、そこに至るまでのモダンダンスの日本での受容について紹介し、意見を交わせたことは、大きな意義があったと思われる。刊行した論文集の詳細と発表は以下のとおりである。

・論考：宮川麻理子「第二次世界大戦下の舞踊家たちの活動」江口博旧蔵資料から (Regards sur les danses au Japon pendant la Seconde Guerre mondiale : de la collection d'Eguchi Hiroshi)、『江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス *À la recherche de la danse moderne au Japon : Scènes de danse de l'ère Shōwa (1926-1989)*』編集・発行：早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 令和 4-5 年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」、2023 年 11 月、pp. 29-40 (日仏語併記、査読なし)

・研究発表：MIYAGAWA Mariko, 《Regards sur les danses au Japon pendant la Seconde Guerre mondiale : de la collection d'Eguchi Hiroshi》(フランス語) 学術研究会「江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス Journée d'études 《À la recherche de la danse moderne au Japon : Scènes de danse de l'ère Shōwa (1926-1989)》」, 共催：早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点令和 4-5 年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」(研究代表者：宮川麻理子)・パリ第 8 大学 MUSIDANSE 研究所「舞踊史及び舞踊人類学研究会」, フランス国立舞踊センター(パンタン)、2023 年 11 月 22 日。

また、これまで積み重ねてきた研究(2019 年 9 月から松下幸之助記念志財団の助成を得た研究題目「戦後のダンスにおける「黒人」の表象に関する研究—暗黒舞踏誕生の周辺状況を再考する」)の成果を、2021 年度に論文として発表した(宮川麻理子「戦後の舞踊作品における「黒人の表象」を巡って」『舞踊學』第 44 号、2021 年、pp. 20-31。ただし原稿締め切りは科研費採択以前のため、謝辞等の記載はなし)。これらをベースに、黒人文化の舞踊への影響をさらに検討した。主に早稲田大学演劇博物館が所蔵する戦前の舞踊や演劇に関する雑誌等を精査し、新たに戦前の黒人の表象を見出した。また、戦後の雑誌『黒人研究』等を調査しながら、日本人の黒人への意識の変遷を追った。これらの研究成果は、国際学会にて英語で発表した(Miyagawa Mariko, 《How Did Japanese Dancers Reflect the War? - US Cultural Diplomacy, Continuing German Modern Dance and Representation of Blackness》, IFTR the 15th Colloquium of ATWG, 中正大學(嘉義、台湾) 2023 年 2 月 19 日)。とりわけ海外では舞踏の知名度は高いものの、そもそも日本のモダンダンスの認知度は相対的に低く、戦前から戦後にかけての舞踊家たちの活動の紹介自体も、意義があるものとなった。また戦後の文脈で舞踏だけでなくモダンダンスも黒人文化の影響を受けていた点、さらにその表象に見られるステレオタイプな黒人のイメージ、新しいダンスのスタイルへの発展、抑圧され差別される黒人への同情と連帯の意識、日本人のうちに存在する差別意識へのまなざしなど多層的な意義を指摘した点は、参加者に高く評価された。

さらに、黒人文化と舞踏の関連を示す上で重要な《ニグロと河》(1961)という作品に関して、新たに当時の台本が見つかり、イエール大学で教鞭をとる Rosa van Hensbergen と共に共同研究を計画するなど、今後よりサーチを継続する予定である。

同時代のテキストの舞踏への影響に関しては、大野一雄舞踏研究所、および土方巽アーカイヴでのリサーチ成果をもとに、論文にまとめた(宮川麻理子「舞踏とミショー—大野一雄の蔵書調査を中心に」『立教映像身体学研究』第 10 号、2023 年 3 月、pp. 85-100 (研究報告・査読なし))。ここでは大野一雄の蔵書についての概要、およびその調査過程を報告した上で、具体例としてアンリ・ミショーのテキストを取り上げ、舞踏の身振りの生成過程に及ぼした効果を、大野と土方の両ケースで比較・検討した。

また、近年新たに見つかった大量の大野一雄の蔵書を中心に、一部データ化しつつ一覧リストを作成しながら整理した。数冊の蔵書については、大野の具体的な書き込みの分析を開始しており、舞踏の成立過程においてこれらのテキストが果たした役割をより詳細に検討していく予定である。これらの研究は、大野一雄、土方巽といった舞踏家の一次資料にアクセスできること、およびそこに書かれた言葉を読み解く作業が可能なが必須の条件であり、海外を含めた舞踏研究においても、まだ十分に調査されていない領域である。20 世紀の舞踊史に大きな足跡を残した舞踏の成立過程に見られる複雑なプロセスを開示することは、舞踏研究の重要な一歩であると想定される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 宮川麻理子	4. 巻 10
2. 論文標題 舞踏とミショー - 大野一雄の蔵書調査を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教映像身体学研究	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮川麻理子	4. 巻 54-2
2. 論文標題 たかが1個のカラダ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 96, 102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮川麻理子	4. 巻 44
2. 論文標題 戦後の舞踊作品における「黒人の表象」を巡って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『舞踊學』	6. 最初と最後の頁 20, 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11235/buyougaku.2021.44_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮川麻理子	4. 巻 なし
2. 論文標題 「第二次世界大戦下の舞踊家たちの活動 江口博旧蔵資料から（Regards sur les danses au Japon pendant la Seconde Guerre mondiale : de la collection d'Eguchi Hiroshi）」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス』編集・発行：早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 令和 4-5 年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」	6. 最初と最後の頁 29, 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 宮川麻理子
2. 発表標題 大野一雄論 身体とエクリチュール（博士論文発表）
3. 学会等名 舞踊学会第25回定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Miyagawa Mariko
2. 発表標題 How Did Japanese Dancers Reflect the War? - US Cultural Diplomacy, Continuing German Modern Dance and Representation of Blackness
3. 学会等名 IFTR the 15th Colloquium of ATWG（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川麻理子
2. 発表標題 江口博が見た戦時下の舞踊
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点令和4年度公募研究課題「江口博旧蔵資料にみる戦時下から戦後の舞踊」主催「1年次コレクション調査報告および研究成果発表」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyagawa Mariko
2. 発表標題 Regards sur les danses au Japon pendant la Seconde Guerre mondiale : de la collection d'Eguchi Hiroshi
3. 学会等名 学術研究会「江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮川麻理子
2. 発表標題 自己の身体に対する解像度を上げる 大野慶人の舞踏の稽古
3. 学会等名 表象文化論学会第10回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究会コメンテーター 宮川麻理子、「帝国日本と冷戦下アジアの文化権力 崔承喜舞踏の表象と交差するイデオロギー」第3回研究会、(國吉和子「日本近代舞踏と崔承喜 その受容と影響について」)に対するコメント)、国際日本文化研究センター2023年度共同研究会プログラム、オンライン、2024年3月2日。 寄稿 宮川麻理子、「(特集)潜在的ダンスの可能性 大野一雄の蔵書調査から」DAN(ダンスアーカイヴ構想)HP、2024年3月、 https://dance-archive.net/jp/features/features_68.html

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 学術研究会「江口博旧蔵資料から見る昭和日本のモダンダンス」	開催年 2023年～2023年
-----------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------